

平成27(2015)年7月28日

【「平和の集い」でのお話】

みなさんおはようございます。今日は、北津守小学校の「平和の集い」の日です。

今から70年前の8月15日まで、日本はアメリカや中国、イギリスなどの連合国と戦争をしていました。はじめのうち、日本はアジア各地を占領しましたが、その後、豊富な武器をもつ連合国側が各地で日本軍を破り、やがて日本各地の街に爆弾が落とされるようになりました。

私たちが今暮らしているこの大阪の街にも何度も空襲がありました。

昭和20(1945)年3月13日、深夜から翌日の明け方にかけて、最初の大空襲が行われました。その後、6月1日、6月7日、6月15日、6月26日、7月10日、7月24日、8月14日に空襲が行われました。これらの空襲で一般の人々、10,000人以上が死亡したと言われています。

ここで校長先生が自分のお父さんから聞いた話をします。

校長先生のおとうさんは、日本が戦争をしている頃は中学生でした。毎日、元気に中学校に通つて…ではありません。その当時は、中学生になったら、戦争のための兵器などを作る工場に働きに行くようになっていたのです。先生のお父さんも、大きな工場で働いていました。

工場で働いていると、しおりゅうアメリカの戦闘機が飛んできたそうです。そしてその度に、「ウー」とサイレンが鳴り、「空襲警報～」と工場の人が叫びます。先生のお父さんは、それを聞いて、仲の良い友だちと一緒に、近くの煙突の下の防空壕に逃げ込んでいました。しばらくすると、戦闘機は飛んで行ってしまい、「空襲警報、解除」の声がかかって、また作業に戻る。そんな毎日を過ごしていました。

ある日も、工場で作業中、アメリカの戦闘機が飛んできました。ところがその日は、「空襲警報～」という声と共に、多くの爆弾が落とされたのです。工場の中はたいへんなことになり、人々は逃げまどっています。先生のお父さんは友だちと一緒に、いつもの煙突の下の防空壕に逃げ込もうとしたのですが、もうすでに人がいっぱい、入れませんでした。

「むこうの壕まで、走れ～！」そう言わされたので、そこから離れた防空壕まで、とにかく走って逃げました。ようやくもう一つの防空壕にたどり着いたとき、後ろで「ドーン」という音が鳴りました。振り返ってみると、さっき自分たちが入ろうとしていた防空壕と煙突に爆弾が落ち、防空壕は一瞬にしてつぶれてしまい、そこに入っていた人は、おそらく全員亡くなってしまった。先生のお父さんはそう言っていました。

もし、その時、先生のお父さんがはじめの防空壕に入っていたら…、おそらく、先生はこの世に存在していないでしょう。先生はこの話を聞いたとき、「たった一つしかない命って本当に大切だ

なあ」と思いました。そしてお父さんに「生きていてくれてありがとう」と言いました。

この部屋の後ろに置いてあるパネルには、沖縄のようすのものもあります。沖縄では、一般の住民の人たちを戦闘に巻き込んだ地上戦が行われました。その期間は実に3ヶ月にも及び、沖縄の町は見る影もない状態になってしまい、死者・行方不明者は約19万人にも上りました。

その頃の日本は、例えば学校では、国のために戦争することがすばらしいと教えていました。また、子どもたちが読む漫画も、戦争することがすばらしいというものでした。新聞やラジオも、戦争に勝つことだけを目的にして、報道していました。

その結果、日本の多くの町は廃墟となってしまいました。そして終戦を迎えたのが、70年前の8月15日でした。それから戦後70年、日本の国とそこに住む人々は、二度と戦争をしないと強く誓い平和な世の中をもとめてきました。

6年生の人たちは、2学期に広島に修学旅行に行きます。広島には昭和20年8月6日に、原子爆弾が投下され、一瞬にして約14万人もの人々が亡くなりました。そこで、毎年、8月6日に平和を願う集会を行っています。そこでは、小学生の代表が、「平和への誓い」を述べています。

昨年の8月6日の平和への誓いの中で、次のように述べられています。

わたしたちは、もう行動をはじめています。

友達を大切にし、優しく接しています。

家族や被爆体験者から被爆の事実と平和への思いを聞いています。

平和の思いを込めて、毎年千羽鶴を折り、慰霊碑に捧げています。

平和とは何か自分で考え、友達とも意見を交流しています。

平和について考えることで、仲間とつながりました。

これからも平和な世界を求めていくために、みなさんも、友だちを大切にしましょう。叩いたり、蹴ったり、馬鹿にしたり、からかったりしないようにしましょう。そして、何か困ったことがあっても、互いの意見や考えを大切にして話合って解決ていきましょう。

もう一つ、今日で夏期教育活動と平和の集いが終わり、「いきいき」に参加する人以外は、2学期の終業式まで、顔を合わせることがあまりありません。終業式の時に、山田真衣先生から、夏休みの暮らし方について話を聞きました。特に、道路で遊ばない、勝手によその土地に入らない、市営住宅の渡り廊下などでは遊ばないということを言っていただきました。

町の中には赤ちゃんから高齢者の方まで、また、病気の方、お昼働いている方、夕方や夜中に働いている方などいろいろな方がいらっしゃいます。自分さえ楽しければいいという考え方ではなく、みんなのことを考えて行動すれば、危険な遊びや危険な場所で遊ぶことや、迷惑をかけるようなことはなくなるはずです。自分のことだけでなく、他の人の気持ちを考えて行動するようにしましょう。これも平和につながる大切なことなので、繰り返しあ話ししておきます。